



2026 年 10 月 27 日

各 位

会 社 名 ク リ ン グ ル フ ァ ー マ 株 式 会 社
住 所 大 阪 市 北 区 中 之 島 四 丁 目 3 番 5 1 号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10 階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号：4884 東証グロース)
問い合わせ先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

バイオインダストリー協会主催セミナー「未来へのバイオ技術勉強会」に 当社社長の安達喜一が登壇します

来る 2026 年 11 月 2 日（月）、一般財団法人バイオインダストリー協会（JBA）主催のオンラインセミナー「未来へのバイオ技術”勉強会”」に、当社代表取締役社長 CEO の安達喜一が登壇いたします。

革新的な技術や明確なビジョンを有する創薬・医療スタートアップであっても、当局対応、海外臨床開発、人材確保など、事業化・グローバル展開に向けたさまざまな課題に直面します。優れた技術を有していても、必要な専門性やリソースを適切なタイミングで導入できなければ、開発プロジェクトが停滞することも少なくありません。

本セミナーでは、創薬・医療ディープテック企業が直面するこうした課題に焦点を当て、「なぜ実装段階で壁に直面するのか」、そして「その壁をどのように乗り越えるのか」について議論します。当社からは、「HGF タンパク質医薬品の海外展開と FDA 対応」と題し、orempermin alfa（オレメペルミン アルファ）の米国開発を中心に、海外展開戦略と現在の取り組みについてご紹介いたします。

開催概要は下記のとおりです。当社の海外展開や事業化戦略への理解を深めていただける機会となりますので、ぜひご参加ください。

記

【イベント概要】

”未来へのバイオ技術”勉強会／創薬・医療スタートアップは、いかにして”実装の壁”を越えたのか？
ーFDA・QMS・CMC・海外展開、そのリアルー

主催 一般財団法人バイオインダストリー協会（JBA）

日時 2026 年 11 月 2 日（月）14：00～16：00

会場 Zoom 配信

参加費 無料

定員 500 名 ※参加には事前申し込みが必要です。

申し込み方法 <https://www.jba.or.jp/event/261102xCARE/> をご参照ください。

【プログラム】

時間	内容
14:00～ 14:15	はじめに：なぜ今、“実装”が創薬・医療スタートアップの成否を分けるのか 太田 信之 氏（OXYGY 代表パートナー）
14:15～ 14:30	なぜ優れた技術が実装で止まるのか？ ～”人”の壁と、業務委託という選択肢～ 福永 将 氏（xCARE 代表取締役）
14:30～ 15:00	HGF タンパク質医薬品の海外展開と FDA 対応 安達 喜一（クリングルファーマ(株) 代表取締役社長 CEO）
15:00～ 15:30	大学発創薬を「事業」に変える～研究シーズからベンチャー創出・成長まで～ 上野 博之 氏（京都大学イノベーションキャピタル(株) 執行役員 投資第二部 部長・事業企画部 シニア・マネジャー）
15:30～ 16:00	総合討論 創薬・医療スタートアップに共通する”実装の壁”とは何か。

以上

HGF（Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子）について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之センター長及び同大学医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果の可能性は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象に oreempermin alfa（オレメペルミン アルファ、組換えヒト dHGF タンパク質の国際一般名称）の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、oreempermin alfa については、日本国内において、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相追加臨床試験及び声帯癬痕を対象とする第Ⅲ相臨床試験を実施しています。脊髄損傷急性期試験では症例組入れを進めており、声帯癬痕試験では症例組入れを完了し、経過観察を継続しています。一方、米国においては、FDA（米国食品医薬品局）における IND が発効し、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相臨床試験の開始に向けた準備を進めています。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。